

## 研修報告書 No.7

研修先： 梶原町立国民健康保険 梶原病院

令和3年1月25日から2月19日まで高知県高岡郡梶原町にある梶原町立国民健康保険梶原病院で研修をさせていただきました。梶原町は高知の西部にある人口3,400人ほどの町です。梶原町には国立競技場で有名な隈研吾氏が設計された雲の上のホテルや雲の上の図書館など魅力的な建築物がたくさんあり、梶原町の魅力に惹かれ最近では都会から移住してくる方もいらっしゃるそうです。私が研修させていただいた時期はとても寒く、最終週には大雪が降りました。みるみるうちに雪が積もっていく光景を目の当たりにし、これも地域医療研修の醍醐味だと感じました。

梶原病院は町内で唯一の病院で、梶原町内だけでなく近隣の町からも患者さんが来られます。研修では、初診外来、創傷処置、小児科外来見学、施設への訪問診療、ご自宅への訪問診療、ケアプラン会と呼ばれる入院中や退院後の患者さんについて医療と行政の立場から話し合う会、介護認定審査会などに参加させていただきました。どれも大学病院では経験することはなく、とても貴重な経験となりました。外来での創傷処置では毎日通院で処置をする患者さんが多く、創傷の状態によって被覆材を選択したり外用薬を追加したりして徐々に治癒していく過程を診ることができました。大きな病院と違い常時院内に技師さんがいるわけではないため、血液検査やレントゲン・CTなどの画像検査も医師がしなければなりません。研修中に関節痛を主訴に来院した患者さんがいました。問診や身体診察をとり、その後関節穿刺をさせていただきました。穿刺した後の関節液をグラム染色し細菌が染まってないか、結晶がないかどうかを顕微鏡で観察しました。細菌はなく、ピロリン酸カルシウムの結晶を認め、偽痛風の診断となりました。関節内注射を行い、鎮痛薬を処方し患者さんは帰宅しました。診察、検査、診断、治療までのすべてに携わらせていただきました。普段自分の研修している病院では、検体の染色は検査オーダーしすべて技師さんをお願いするため自分で行うことはありません。自分で標本をつくり実際に顕微鏡を覗いて診断したことは研修中に印象に残ったことの一つです。

訪問診療にも同行させていただきました。最期をご自宅で看取ることを希望しているご家族のお宅に訪問し、近況やご家族が何か困っていないかを伺ったりしました。そのご家族は訪問リハビリ、訪問入浴、ショートステイなどのサービスを上手に活用され、介護の負担を軽減しながら在宅介護をされていました。ご家族が試行錯誤しながら介護される様子や、訪問した医師がご家族に対して労いの言葉をかける様子を見て、今後日本社会に必要な在宅医療について考えるきっかけになりました。

ケアプラン会とは、週に1回、入院中の患者さんが退院後に自宅に帰れるか、自宅で生活することが難しいと予測される場合には介護申請を行い施設への入所を速やかに行えるよ

うに医療と行政が話し合う場です。退院し地域に戻った患者さんが自宅でうまく過ごせているかどうか行政から知ることができます。患者さんひとりひとりに焦点を当てた話し合いがなされています。

その他にも特別養護老人ホームや障害者支援施設への訪問診療では、各施設で80人ほど入所者さんの診察や胃瘻チューブや尿道バルーンの交換などをさせていただきました。介護認定審査会では、他の地域の介護申請や介護区分申請について主治医意見書や一次審査の結果を参考に階級を決めたり、区分変更が必要かを決定したりする過程を実際にみることができました。自分が主治医意見書を書く側になったときにどのように書けばそれをみる側がわかりやすいかを知ることができました。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症が大変深刻な中で研修の受け入れをしていただき、ありがとうございました。高知医療再生機構の担当者様、梶原病院のスタッフの方々に心から感謝申し上げます。